

クリーンセンター建て替え

コミセン勉強会(第8回) 報告書

日時：平成21年5月21日(金)
18:30~20:30

場所：西部コミュニティセンター3階
会議室A・B

参加者：一般 2名 委員 7名
(橘委員・広江委員・早川委員・越智委員・石黒委員)



事務局より「中間のまとめ」について一時間程度説明をした後、以下のような、参加者と委員、事務局の間で意見が出されました。今回は広報不足などにより参加者が非常に少なかったのですが、これらを集約して委員会での提言につなげていきたいと思えます。

- 一般の人が、この「中間のまとめ」を見て、これだけの資料を理解できるのか。一般市民の関心を得られるようなものにするべき。

概要版によって簡潔に書いているが、文章はどうしても難しいものになってしまう。最終報告書は本文編をより簡潔で見やすいものにするべく作成中である。少しでも分かりやすい報告書となるよう努力したい。そして、そこから関心を持った部分の資料について深く理解できるよう資料編を作成中である。

- ごみは毎日出るもの。PRの仕方を工夫するべき。場所によって、どうやれば人が集まるか考えるべき。

今日集まらないのは、普段出席者の多い「クリーンむさしのを推進する会」の地域集会にて、今回の委員会の内容などを11ヶ所全てで報告することになっており、同じものを聞くことになるので足が遠のいている人が多いとも考えられる。

- 施設の規模について、機能を分散して異なる地域に分散配置を行うことで、ごみに対する興味を喚起できるのではないか。

生ごみ処理等について、将来に向けた分散配置を提言する予定である。

現クリーンセンター操業協定書には「操業停止」を求めることができるとなっている。クリーンセンターを壊れるまで使うよう延命を求める人もいるが、一週間程度のクリーンセンター停止の疑似体験をしてみてクリーンセンターの建て替えについてアピールするというのは。

(法律上の市の責任として、可能であるのにごみの収集を行わないことはできない)

周辺住民としてハード面での心配は無いのだが、これから30年60年引き受けるとするなら、それを遠方の人にも分かってほしい。分散配置などで負担をみんなで受けてもらいたい。

ごみ行政はサービスをし過ぎなので、みんな関心が無い。常にサービスを見直すべき。少し不満があるくらいの方が関心が出る。